

ブックマークに着目した情報探索意識に関する研究

大谷 紀子研究室

0332243 吉田 悠一朗

1. 研究の背景と目的

近年、情報収集活動においてインターネット利用は一般的な行為である。しかし、日々インターネット上の情報は増え続けており、必要な情報を正確にすばやく手に入れることは困難である。また、サーチエンジンを使用した検索により情報の取捨選択が可能であるが、満足のいく情報の獲得は、利用者の情報リテラシーに頼るところが多い。

ブラウザのブックマークは利用者が得た情報を効率よく活用するための機能で、利用頻度は非常に高いと考えられる。先行研究においては、ブックマーク情報は利用者によって選別された重要度の高いものであり、嗜好を反映したものであると判断されている。また、ブックマークを利用者の貴重な個人情報と位置づけ、システムとして活用する考え方が大勢である。しかしながら、ブックマークを利用している人間について、思考や行動を調査・研究した例は少ないのが現状である。

本研究では、今まで明確でなかったブックマーク利用の実態を明らかにすることを目的とし、先行研究において着目されなかったブックマーク利用者の意識と行動に注目して調査する。また、先行研究のブックマークシステム作成の焦点とされている「情報共有」に注目し、本研究の調査データを示すことにより、これから先のブックマークシステム作成における参考となる提言をする。

2. 調査方法

調査1. ブックマークフォルダ情報の調査

目的 : ブックマークフォルダ構造とフォルダ名の共通点や特徴を明らかにする

対象者 : 武蔵工業大学環境情報学部所属の学生 39 名 (男性 33 名 女性 6 名)

調査内容 : 専用の書き込み用紙にブックマークのフォルダ情報、フォルダ名・フォルダ構造・登録サイト名を調査対象者が許せる範囲で記入

調査2. 質問紙調査

目的 : ユーザのブックマークに対する使用実態と意識を明らかにする

対象者 : 武蔵工業大学環境情報学部所属の学生 269 名

(男性 191 名 女性 61 名, 平均年齢 19.052 歳 有効回答数 252 部)

調査内容 : 質問紙によるアンケート調査 (ブックマーク使用頻度・プライバシー等)

3. 結果

(1) 調査1の結果

ブックマークフォルダ情報名について KJ 法で分析し、「PC・コミュニケーション」・「趣味」・「環境」・「その他」の4つに分類した。「その他」を除く3要素はそれぞれ関連性を持ち、同一のフォルダ名でも複数の要素に含まれるフォルダの存在が確認された。また、生活環境や趣味が近い集団では、20%~35%の割合でフォルダ名が共通していた。

(2)調査2の結果

図1～2に示すように、Webやブックマークの利用について、ユーザにより幅があることが明らかになった。また、図3に示すように、プライバシーについて、条件付項目も含めて「見られても良い」という回答が77%となる結果を得た。一方、図4に示すように、実際に情報共有型ブックマークシステムが存在した場合、使用するかについて、「使用する」という回答が35%となり、「使用しない」を下回った結果となった。

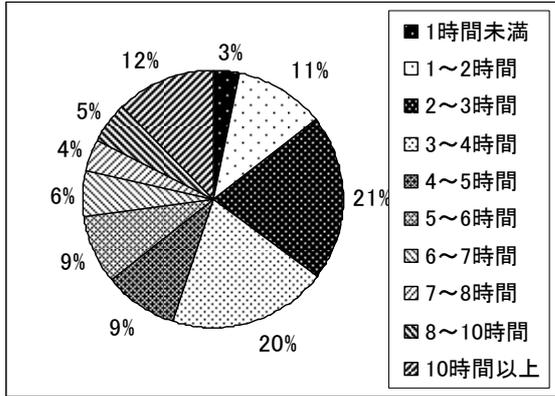


図1：Web 最高利用時間

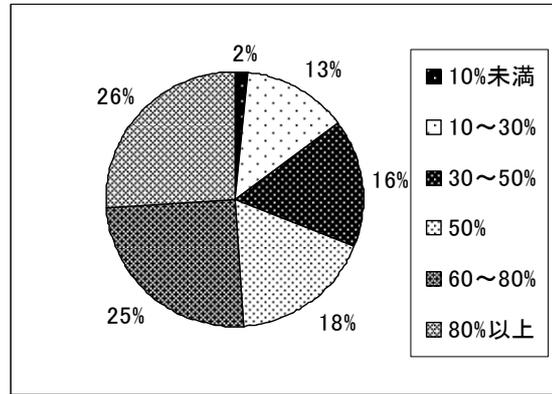


図2：ブックマーク利用率（検索との比較）

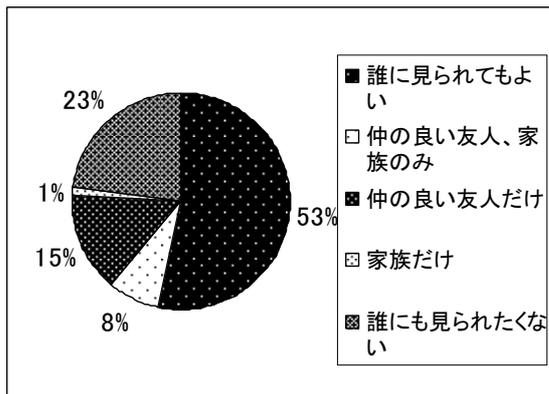


図3：ブックマークプライバシー

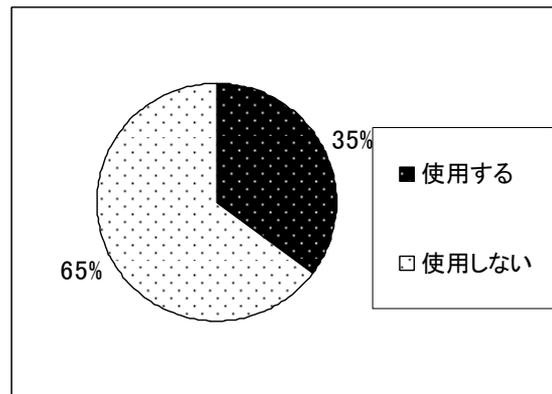


図4：情報共有システムの使用

4. 考察

調査からユーザのブックマーク利用について、フォルダ名等の共通する点と、時間や利用率等の差異が多い点が明らかになった。特に情報の利用に関して、ユーザの中で高・低2つのレベルに区別できることがわかった。今後のブックマークシステム作成に関して、本調査で明らかになった共通・差異部分は参考になると考えられる。

一方、ユーザの「情報共有」に対する認識は、肯定・否定両面を含んでいる。意識レベルにおいて、情報を見られてもかまわないと思うユーザが多いが、実際に共有に関するシステムの使用についての判断になると、使用はしないと考えている。したがって、情報を共有することにより、明確な利益が示されるシステムでなければ、ユーザに受け入れられないと考えられる。

参考文献

[1] “総務省 情報通信統計データベース” <http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/index.html>
 [2] 森幹彦, “ブックマークエージェント:ブックマークの共有による情報検索の支援”, 電子情報通信学会論文誌, Vol83(5), pp489-494, 2000